

大学・高専機能強化支援事業（支援 2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F124110107141	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
大学名	三重大学	設置区分	国立	事業計画名	三重大学高度情報専門人材育成事業
学校種	大学	都道府県	三重県		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度	【情報系組織の入学定員】＜修士＞30名、＜学士＞65名 工学研究科システム工学専攻（博士課程） 入学定員10名 工学研究科情報工学専攻（修士課程） 入学定員30名 工学部総合工学科情報工学コース 募集人員（1年次）60名、総合工学コースからの配属人員（2年次）5名 3月 工学部総合工学科 大学の収容定員に係る学則変更意見伺い予定	【情報系組織の入学定員】＜博士＞10名、＜修士＞30名、＜学士＞65名 工学研究科システム工学専攻（博士課程） 入学定員10名 工学研究科情報工学専攻（修士課程） 入学定員30名 工学部総合工学科情報工学コース 募集人員（1年次）60名、総合工学コースからの配属人員（2年次）5名 3月 工学部総合工学科 大学の収容定員に係る学則変更意見伺い	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	① 10月 高校等への説明を開始する。 ・学部総合工学コースの廃止 ・情報工学コース募集人員60名から95名に増員 ・情報工学コース3年次編入学募集人員5名の新設 ・電子情報工学コース40名の新設 ・大学院電子情報工学専攻10名の新設 ② 10月 工学部総合工学科における各コースのカリキュラム見直しなどの検討を行う。 ③ 10月 高専専攻科学生を連携プログラムとして受け入れる協議を県内の高専（鈴鹿高専、鳥羽商船高専、近大高専）と行う。	① 10月 高校等への説明を開始した。 ・学部総合工学コースの廃止 ・情報工学コース募集人員60名から95名に増員 ・情報工学コース3年次編入学募集人員5名の新設 ・電子情報工学コース40名の新設 ・大学院電子情報工学専攻10名の新設 ② 10月 工学部総合工学科における各コースのカリキュラム見直しなどの検討を行った。 ③ 10月 高専専攻科学生を連携プログラムとして受け入れる協議を県内の高専（鈴鹿高専、鳥羽商船高専、近大高専）と行った。 うち、鳥羽商船高専とは連携教育プログラムの実施に関する協定を締結した。		
令和6年度	【情報系組織の入学定員】＜修士＞30名、＜学士＞65名	【情報系組織の入学定員】＜修士＞30名、＜学士＞65名	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	① 4月 教員3名（情報工学専攻：情報ネットワーク分野、知的計算機分野、環境情報分野）を採用する。 ② 4月 令和7年度から開始する工学部総合工学科の新たな専門教育カリキュラムの検討を継続するとともに、令和7年度に設置する電子情報工学コースのカリキュラムを検討する。 ③ 4月 新規採用する教員の研究室や学生実験実習のための教室を整備するため、工学部6号館等改修設計を行う。 ④ 6月 情報工学コース編入学試験を推薦選抜6月上旬、学力選抜6月下旬にそれぞれ実施する。 ⑤ 6月 令和7年度入学の高専専攻科との連携教育プログラムを対象とした入学試験を実施する。 ⑥ 8月 令和7年度新設の大学院電子情報工学専攻の入学試験を実施する。 ⑦ 9月 教員1名（電子情報工学専攻：データサイエンス分野）を採用する。 ⑧ 10月 教員5名（情報工学専攻：社会情報分野、分散知能システム分野、量子情報応用分野、生命知能応用分野、電子情報工学専攻：センシング工学分野）を採用する。 ⑨ 10月 工学部6号館等改修工事（初年度）を施工する。 ⑩ 11,1,2月 令和7年度の学部入学定員に対応した学部入学試験（推薦、一般前期日程、一般後期日程選抜）を実施する。	（旧①削除）【R6年11月21日承認】 ① 4月 令和7年度から開始する工学部総合工学科の新たな専門教育カリキュラムの検討を継続するとともに、令和7年度に設置する電子情報工学コースのカリキュラムを検討した。 （旧③削除）【R6年11月21日承認】 ② 6月 情報工学コース編入学試験を推薦選抜6月上旬、学力選抜6月下旬にそれぞれ実施した。 ③ 6月 令和7年度入学の高専専攻科との連携教育プログラムを対象とした入学試験を実施した。 ④ 8月 令和7年度新設の大学院電子情報工学専攻の入学試験を実施した。 ⑤ 9月 教員1名（電子情報工学専攻：データサイエンス分野）を採用した。 （旧⑧削除）【R6年11月21日承認】 （旧⑨削除）【R6年11月21日承認】 ⑥ 10月 教員2名（情報工学専攻：情報ネットワーク分野 電子情報工学専攻：センシング工学分野）を採用した。 【R6年11月21日承認】 ⑦ 11,1,2月 令和7年度の学部入学定員に対応した学部入学試験（推薦、一般前期日程、一般後期日程選抜）を実施した。 ⑧ 12月 教員1名（情報工学専攻：環境情報分野）を採用した。 【R6年11月21日承認】 ⑨ 1月 教員1名（情報工学専攻：生命知能応用分野）を採用した。 【R6年11月21日承認】 ⑩ 2月 新規採用する教員の研究室や学生実験実習のための教室を整備するため、工学部6号館等改修設計を行った。 【R6年11月21日承認】 ⑪ 3月 工学部6号館等改修工事（初年度）を施工した。 【R6年11月21日承認】		
令和7年度	【情報系組織の入学定員】＜修士＞30名、＜学士＞140名 4月 工学部総合工学科情報工学コース 35名増員予定（募集人員95名、編入学募集人員5名） 4月 工学部総合工学科電子情報工学コース コース開設予定（募集人員40名） 4月 工学部総合工学科情報系以外のコース 40名減員予定（募集人員295名、編入学募集人員30名）		R7年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 学部電子情報工学コース、大学院電子情報工学専攻を設置する。 ② 4月 学部情報工学コース1年生95名、3年生70名、電子情報工学コース40名体制での教育を実施する。 ③ 4月 高専専攻科との連携教育プログラム（学部3年次授業より専門科目を受講）を開始する。 ④ 4月 技術補佐員2名を採用する。 ⑤ 4月 電子情報工学に係る教育のための実験実習設備を整備する。 ⑥ 5月 入学者及び企業へのアンケート、授業アンケートにより教育に関するPDCAを行いながら授業改善を行うシステムを工学研究科で構築し、専攻長会議でそのシステムの評価を行う。 ⑦ 9月 工学部6号館等改修工事（2年目）を竣工する。			

令和8年度	【情報系組織の入学定員】＜修士＞30名、＜学士＞140名 工学研究科情報工学専攻（修士課程）入学定員増加に係る概算要求調書提出予定		R8年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 学部情報工学コース2年生95名、4年生70名、電子情報工学コース40名体制下での2,4年次教育を実施する。 ② 7月 計算機演習のための実験実習設備を整備する。 ③ 8月 3年次編入学生増員に伴う大学院情報工学専攻定員増（30名→35名）に対応した大学院入学試験を実施する。			
令和9年度	【情報系組織の入学定員】＜修士＞35名、＜学士＞140名 4月 工学研究科情報工学専攻（修士課程）5名増員予定（入学定員35名）		R9年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 高専専攻科と連携教育プログラム（学部3年次授業より専門科目を受講）修了生の大学院受け入れを開始する。 ② 4月 大学院情報工学専攻定員35名（5名増）に対する大学院授業と博士前期課程研究指導を開始する。 ③ 4月 学部情報工学コース3年生100名、電子情報工学コース3年生40名体制での教育を実施する。 ④ 7月 次年度実施の情報工学コース4年生100名及び電子情報工学コース4年生40名に対応した卒業研究のための環境整備及び機材整備を行う。 ⑤ 10月 令和10年度にクロスアポイントメント（20％）実務家教員5名を採用するため、関連分野の教員の人选とその企業とクロスアポイントメントに関する打ち合わせを行い協定等を締結する。 ⑥ 1月 学部4年生と博士前期課程をつなぐ学部修士一貫コースについて、3年次学生に説明やガイダンスを行う。 ⑦ 2月 学部修士一貫コースへの申請受付を行う。			
令和10年度	【情報系組織の入学定員】＜修士＞35名、＜学士＞140名 工学研究科情報工学専攻（修士課程）入学定員増加に係る概算要求調書提出予定 工学研究科電子情報工学専攻（修士課程）入学定員増加に係る概算要求調書提出予定		R10年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 クロスアポイントメント教員5名を採用し、実務経験に基づいた授業を実施する。 ② 4月 定員増に応じた大学院授業と博士前期課程研究指導体制を整備する。 ③ 4月 情報工学コース4年生100名及び電子情報工学コース4年生40名に対応した卒業研究を行う。 ④ 8月 次年度実施の大学院情報工学専攻定員55名（R7年度より25名増）、電子情報工学専攻定員20名（デジタル分野10名増）に対する入学試験を実施する。 ⑤ 10月 令和7年度に改定した学部カリキュラムに対応した大学院博士前期課程カリキュラムの改正を行う。 ⑥ 3月 令和7年度から開始した情報工学コースの定員増加、電子情報工学コースの新設について自己分析と評価を行い、必要に応じた改革を検討する。			
令和11年度	【情報系組織の入学定員】＜修士＞65名、＜学士＞140名 4月 工学研究科情報工学専攻（修士課程）20名増員予定（入学定員55名） 4月 工学研究科電子情報工学専攻（修士課程）デジタル分野（仮称）開設予定（募集人員10名）		R11年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 学部情報工学コース100名（うち3年次編入学5名）、電子情報工学コース40名体制での教育を継続する。 ② 4月 大学院情報工学専攻55名（20名増）、電子情報工学専攻20名（うちデジタル分野10名）を入学生として受入れ、博士前期課程の高度情報に関するカリキュラムを実施する。 ③ 6月 入学者及び企業へのアンケート、授業アンケートにより教育に関するPDCAを行いながら授業改善を行うシステムを工学研究科で構築し、専攻長会議でそのシステムの評価を行う。 ④ 6月 改定した大学院カリキュラムの点検を行い、必要があれば改善を行う。			

令和12年度	【情報系組織の入学定員】＜修士＞65名、＜学士＞140名 4月 工学部以外の学部 30名減員予定		R12年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 学部情報工学コース100名（うち3年次編入学5名）、電子情報工学コース40名、大学院情報工学専攻55名、電子情報工学専攻20名体制での教育研究を継続する。 ② 6月 入学生、在学生のほか、学部卒で就職した学生についてもアンケートを実施し、必要に応じて改善を行うPDCAを実施する。 ③ 3月 学部情報工学コース定員100名（うち3年次編入学定員5名）、電子情報工学コース40名、大学院情報工学専攻55名、電子情報工学専攻20名体制での大学院博士前期課程修了生が輩出され、本事業に係る改組を完了する。			
令和13年度	【情報系組織の入学定員】＜修士＞65名、＜学士＞140名		R13年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 学部情報工学コース定員100名（うち3年次編入学定員5名）、電子情報工学コース40名、大学院情報工学専攻55名、電子情報工学専攻20名体制での教育研究を継続する。 ② 6月 入学生、在学生のほか、学部卒で就職した学生、大学院修了生についてもアンケートを実施し、必要に応じて改善を行う。 ③ 6月 特に、博士前期課程修了生の就職先や関連分野の企業からヒヤリング等によるアンケートを実施し、本事業全体について評価し、必要に応じた改善を行う。			
令和14年度	【情報系組織の入学定員】＜修士＞65名、＜学士＞140名 4月 工学部以外の学部 5名減員予定		R14年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月 学部情報工学コース定員100名（うち3年次編入学定員5名）、電子情報工学コース40名、大学院情報工学専攻55名、電子情報工学専攻20名体制での教育研究を継続する。 ② 6月 入学生、在学生のほか、学部卒で就職した学生、大学院修了生についてもアンケートを実施し、必要に応じて改善を行う。 ③ 7月 本事業終了後における教育研究の実施体制への移行を進める。			

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	三重大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
対象に該当しない	☐ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	三重大学
-------------	-------	-----	------

⑤

計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑥

特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑧

教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）

既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック
---------------------	--

⑨

機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑩

計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑪

国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時までには他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック
-----------------------	--

⑫

教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	三重大学
-------------	-------	-----	------

⑬

文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AⅠ教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。		
認定を受けている、又は対象に該当しない	☐ チェック	
認定を受ける計画が進んでいる	☒ チェック	

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック	

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報工学専攻及び電子情報工学専攻では、地域社会のニーズに応えるために、企業等と連携した授業科目の開発・実施など、 自治体や企業との連携を強化した取組 を行う。具体的には、 企業の技術者や研究者による授業 を行い、 最新の技術や知識、現場で必要とされる能力 を身につける。また、地域の企業や自治体から提供された課題を取り上げ、学生が PBL教育 を通じて解決に向けた取組を行うとともに、 実働300時間の長期インターンシップ も積極的に実施する。更に、電子情報工学専攻では、企業との 共同研究をベースとした人材育成 を行う。学生は、企業での 実践的な経験 を積むことで専門知識だけでなく 現場で必要とされるスキルや人間力 を身につけることができ、企業側にとっても、 学生からの新しいアイデアや知見 を得ることができるため、 相互にメリットがある取組 と言える。以上のように、企業等と連携した授業科目の開発・実施、PBL教育、長期インターンシップの導入など、多角的な取組を実施する計画であり、学生は 地域社会の課題を解決するための人材 として育成され、 地域の経済発展や社会問題の解決に貢献 することが期待できる。	本事業対象の情報系組織における個別計画の実績・状況は以下のとおりである。（工学部総合工学科電子情報工学コース及び工学研究科電子情報工学専攻については、令和7年度設置予定のため、現在、半導体分野の教育研究を行う工学部総合工学科電気電子工学コース及び工学研究科電気電子工学専攻が行った実績・状況を記載。） ○企業の技術者や研究者による授業科目 総合工学科情報工学コースでは、3科目実施。（実践ソフトウェア開発演習/実践ソフトウェア開発プロジェクト演習、情報工学特別講義Ⅰ、工場見学） 情報工学専攻では、1科目実施。（情報工学特別講義AI・AⅡ） 総合工学科電気電子工学コースでは、9科目実施。（電気法規、社会共創概論、電気電子工学特別講義Ⅱ、電気エネルギー工学Ⅱ、電気電子工学特別講義Ⅰ、電気電子工学特別講義Ⅱ、電気エネルギー工学Ⅰ、電気機器設計、工場見学） 電気電子工学専攻では、2科目実施。（電気電子工学特別講義AⅠ・AⅡ（前期、後期）） 次年度も、同様の取組を行う。 ○実働300時間の長期インターンシップ 受入れ先企業は現在8社。 工学部において、令和5年度5件（住友電装、FIXER等）の実績がある。 次年度は引き続き工学部教員及び北勢サテライトのコーディネーターにより、受入れ企業の増加に取り組む。 ○共同研究をベースとした人材育成 企業等との共同研究における学生参画（履修）実績として、情報工学コース・専攻で18名、電気電子工学コース・専攻で17名あり、次年度も、同様の取組を行う。	○実働300時間の長期インターンシップ 令和5年度は本事業対象コース学生の長期インターンシップ履修者がおらず課題である。 この長期インターンシップは、民間企業での実体験を修士課程での研究等に活かすことを目的に、学部・修士一貫コースの学生を対象としているため、本事業対象コースの学生にも履修を促していく必要がある。（令和5年度は、学部・修士一貫コースの学生108名のうち、5名が履修） 次年度は説明会を実施し、長期インターンシップを終えた学生の体験談等を聞かせることで動機付けを行い、履修につなげる。 また、受入れ先企業の増加についても取り組むこととしており、工学部教員及び北勢サテライトのコーディネーターが中心となり企業へ働きかけを行う。（現在8社）

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	三重大学
-------------	-------	-----	------

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本研究科では、 出前授業を基本的に全教員で行っている 。情報工学専攻では中・高校生を対象として「ヒトの脳とコンピュータをつなぐ」等のテーマで実施している。また、 三重県の「みえのデジタル社会の形成に向けた戦略推進計画」と連携 して、ICTを活用した教育の推進に取り組んでいる。特に、情報工学専攻は、 高校での情報教育に関する実践授業の支援 を目的に、高校での実践授業を支援するためのプログラムを提供することで、教員のスキルアップを支援し、より良い教育環境を整備することを目指している。 小中学校については、青少年のための科学の祭典を本学で実施 する等、 プログラミングなど情報教育の魅力を地域に伝える活動 を行っている。また、科学技術振興機構の 理数系教員養成拠点構築（CST）事業(H23～28年) 及び ジュニアドクター育成塾(H29～R5年） の採択を受けて、前者は三重県の小・中学校における理科教育の改善と指導力の向上、後者は三重県内で科学研究に強い関心と潜在的能力を持つ児童生徒の支援を行い能力の伸長を図ることを目的に実施してきた。現在、三重県内の 大学、高専、教育委員会と協力して県内4か所で教室を開設 している。 プログラミングなどの情報工学に関するテーマも実施 されている。	本事業対象の情報系組織における個別計画の実績・状況は以下のとおりである。（工学部総合工学科電子情報工学コース及び工学研究科電子情報工学専攻については、令和7年度設置予定のため、現在、半導体分野の教育研究を行う工学部総合工学科電気電子工学コース及び工学研究科電気電子工学専攻が行った実績・状況を記載。） ○高校への出前授業 情報工学専攻・コースでは、2件実施。（テーマ：「ネットにつながるモノ・コト・ヒト」、「ヒトの脳とコンピュータをつなぐ」） 電気電子工学専攻・コースでは、5件実施。（テーマ：「光る半導体LEDのしくみと応用」、「影で活躍する「制御」のしくみ」、「人工知能のはなし」、「工学系の職業」、「光る半導体LEDのしくみと応用」） 次年度も同様の取組を行う。 ○高校での情報教育の実践支援 情報工学専攻において、2件実施。（①高大連携学問探求セミナーにおいて、「実践プログラミング：最適経路の探索」を開催（2日間、オンライン）、②高大連携マッチング事業において、「リモートセンシングとデータサイエンス」という題目で講義・実習を実施） 次年度も同様の取組を行う。 ○小中学生に情報教育の魅力を地域に伝える活動 工学研究科では、小中学生を対象とした「夏休みもののづくり・体験セミナー」を開催（R5.8）。 次年度も同様の取組を行う。 ○ジュニアドクター育成塾 電気電子工学コース・専攻において、2テーマで3回実施。（テーマ：「プログラミングで学ぶ物理の基礎」、「光文化を変えたLED」） 次年度も、同様の取組を行う。	課題等は特になし

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
半導体・デジタル未来創造センターでは 「女性研究者が輝く未来創造プロジェクト」 として、大学、企業等で活躍している女性研究者を招聘して講演会とともに懇談会を実施している。この活動では、 招聘した女性研究者をロールモデル として示すとともに、 学年やコースを超えた女子学生のコミュニティ形成 を行っている。また、オープンキャンパスや出前授業においても、女子学生の入学者増加にも取り組んでいる。社会人については、 地域イノベーション学研究科を中心に、リカレントやリスキリングの教育実績 を有している。社会人特別選抜を実施し、学位取得支援制度の活用など、社会人が柔軟に入学できるような制度を整備している。更に、 R4年にリカレント教育センターを設置 し、社会人学生の学習支援やキャリアアップ支援などを行っている。 国際交流センターでは、留学生等の受入れに関する全学の協力と留学生への支援 を進めている。外国人留学生特別選抜を導入し、また留学生を対象とした日本語教育、独自の奨学金制度など、留学生が入学しやすい環境づくりを行っている。 外国の協定校を含めた国際シンポジウムを工学研究科で毎年開催し、グローバル化・コミュニケーション力も強化 している。	本事業対象の情報系組織における個別計画の実績・状況は以下のとおりである。（工学部総合工学科電子情報工学コース及び工学研究科電子情報工学専攻については、令和7年度設置予定のため、現在、半導体分野の教育研究を行う工学部総合工学科電気電子工学コース及び工学研究科電気電子工学専攻が行った実績・状況を記載。） ○女性研究者が輝く未来創造プロジェクト 半導体・デジタル未来創造センターと共同で、大学や企業等で活躍する女性研究者による講演会・懇談会を3回開催。 次年度も、同様の取組を行う。 ○オープンキャンパスでの女子学生向けイベント 総合工学科情報工学コースを始めとする全コースで、各コースの女子学生による女子学生向けの進学説明会を実施。 次年度も、同様の取組を行う。 ○社会人向け教育 工学部・研究科としては、リカレント教育センターを通して企業の要望に沿ったオーダーメイド型のリカレント教育プログラムを令和5年度から開始し、専門性の高い講義を提供している。 令和5年度は、工学部において1件2名の受入れを行った。 次年度は、電気電子工学コースで1件の受入れ予定である。 ○留学生支援 工学部では、学部編入学の私費外国人留学生支援制度により、留学生2名（ハロイツイニングプログラム学生2名）に対して授業料等の支援を実施した。 工学研究科では、私費外国人特待留学生制度により、留学生6名（継続4名、新規2名）に対して授業料支援（全額免除）を実施した。 次年度も、同様の取組を行う。 ○グローバル化推進 工学研究科で専攻横断的な国際シンポジウムを開催し、外国人研究者による講演会を9件実施した。 次年度も、同様の取組を行う。	課題等は特になし

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	三重大学
-------------	-------	-----	------

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学は、「 高等教育コンソーシアムみえ 」による 県内の大学、高専と学生の相互交流プログラムを実施 している。このプログラムは、他大学や高専の学生との交流を通じて、地域間や学問領域を超えた学生の交流を促進することを目的として、異なる文化や環境に触れることで、多様な価値観を学び、社会に貢献する人材を育成することを目指している。更に、地域産業との連携も積極的に行っている。例えば、「 みえ半導体ネットワーク 」や「 中部地域半導体人材育成等連絡協議会 」のように 地域の半導体産業と産学官の協力関係 がある。情報工学分野においても、 三重県の「みえのデジタル社会の形成に向けた戦略推進計画」と連携 して、実践的な知識や技術を身につけた人材を育成する活動を行っている。また、 高専専攻科との連携教育プログラムの実施 に向けた打ち合わせも開始している。高専専攻科は、実践的な技術を身につけた専門的な人材を育成するために、産学連携を重視しているが、本学との連携教育プログラムにより、高専専攻科の学生が大学の専門知識を学び、さらに大学院に進学することでより高度な専門知識や研究力が教授される。 鳥羽商船高専とは、情報工学分野における人材育成の連携協議 を進めている。	本事業対象の情報系組織における個別計画の実績・状況は以下のとおりである。（工学部総合工学科電子情報工学コース及び工学研究科電子情報工学専攻については、令和7年度設置予定のため、現在、半導体分野の教育研究を行う工学部総合工学科電気電子工学コース及び工学研究科電気電子工学専攻が行った実績・状況を記載。） ○「高等教育コンソーシアムみえ」（本学に事務局を設置）での県内大学、高専との学生相互交流プログラム 県内の学生たちが取り組む地域活動発表会として「みえまちキャンパスin 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部」（R6.2.22）を開催。今回は5団体の学生が参加し、プレゼンテーションやパネル展示による発表を行った。 また、「高等教育コンソーシアムみえ」に加盟する県内大学、高専との間で単位互換制度を実施しており、所属大学で開講されていない科目を加盟する県内大学、高専の学生に提供した。 次年度も加盟する県内大学、高専との間で連携し、学生相互交流の取組を継続して行う。 ○みえ半導体ネットワークでの活動 みえ半導体ネットワークとして、以下の取組を実施した。 ・みえ半導体産業セミナー（R5.10.23）への参加（電気電子工学専攻三宅教授による半導体・デジタル未来創造センターの紹介） ・半導体・デジタル未来創造センター研究会（R6.1.19）において、「半導体産業に関わる企業の人材育成の課題」についてパネル討論を実施（電気電子工学専攻中村教授がモデレーター） このほか、人材育成部会（3回）、高専教員対象の工場見学会（2回）などを実施した。 次年度も同様の取組みを行う。 ○高専専攻科との連携教育プログラム 鳥羽商船高専と、情報工学分野および電気電子工学分野における人材育成の連携についての協議を進め、高専・大学連携教育プログラムの実施のための協定を締結した（R6.3）。 次年度は、鳥羽商船高専との高専・大学連携教育プログラムに基づいた学生募集を行う。	課題等は特になし

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	三重大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
対象に該当しない	☐ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	三重大学
-------------	-------	-----	------

⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑧ 教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）

既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック
---------------------	--

⑨ 機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時までには他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック
-----------------------	--

⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

計画通りに進んでいる	☒ チェック
------------	--

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	三重大学
-------------	-------	-----	------

⑬

文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。		
認定を受けている、又は対象に該当しない	☐ チェック	
認定を受ける計画が進んでいる	☒ チェック	

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック	

4 .審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報工学専攻及び電子情報工学専攻では、地域社会のニーズに応えるために、企業等と連携した授業科目の開発・実施など、 自治体や企業との連携を強化した取組 を行う。具体的には、 企業の技術者や研究者による授業 を行い、 最新の技術や知識、現場で必要とされる能力 を身につける。また、地域の企業や自治体から提供された課題を取り上げ、学生が PBL教育 を通じて解決に向けた取組を行うとともに、 実働300時間の長期インターンシップ も積極的に実施する。更に、電子情報工学専攻では、企業との 共同研究をベースとした人材育成 を行う。学生は、企業での 実践的な経験 を積むことで専門知識だけでなく 現場で必要とされるスキルや人間力 を身につけることができ、企業側にとっても、 学生からの新しいアイデアや知見 を得ることができるため、 相互にメリットがある取組 と言える。以上のように、企業等と連携した授業科目の開発・実施、PBL教育、長期インターンシップの導入など、多角的な取組を実施する計画であり、学生は 地域社会の課題を解決するための人材 として育成され、 地域の経済発展や社会問題の解決に貢献 することが期待できる。	（工学部総合工学科電子情報工学コース及び工学研究科電子情報工学専攻については、R7年度設置のため、R6年度末時点で、半導体分野の教育研究を行う工学部総合工学科電気電子工学コース及び工学研究科電気電子工学専攻が行った実績・状況を記載。） ○企業の技術者や研究者による授業科目 ＜学部＞ ・総合工学科情報工学コースでは、3科目実施。[実践ソフトウェア開発演習、情報工学特別講義Ⅰ・Ⅱ、工場見学] ・総合工学科電気電子工学コースでは、8科目実施。[電気法規、社会共創概論、電気電子工学特別講義Ⅰ、電気電子工学特別講義Ⅱ、電気エネルギー工学Ⅰ、電気エネルギー工学Ⅱ、電気機器設計、工場見学] ＜大学院＞ ・情報工学専攻では、1科目実施。[情報工学特別講義AI・AⅡ] ・電気電子工学専攻では、2科目実施。[電気電子工学特別講義AⅠ・AⅡ（前期、後期）] ○実働300時間の長期インターンシップ（学部） ＜受入企業数＞ ・受入可能な企業数は工学部全体で8社あり、R6年度の受入先は2社（実績）。[住友電装、ジャパンマテリアル] ＜参加学生数＞ ・情報工学コースにおいて、学生1名（受入企業：住友電装）が参加した。工学部全体では、4名が参加した。 ○企業等との共同研究をベースとした人材育成への学生の参加人数（学部・院） ・学生の参画実績は、情報工学コース・専攻で20名、電気電子工学コース・専攻で57名であった。	課題等は特になし

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	三重大学
-------------	-------	-----	------

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本研究科では、 出前授業を基本的に全教員で行っている 。情報工学専攻では中・高校生を対象として「ヒトの脳とコンピュータをつなぐ」等のテーマで実施している。また、 三重県の「みえのデジタル社会の形成に向けた戦略推進計画」と連携 して、ICTを活用した教育の推進に取り組んでいる。特に、情報工学専攻は、 高校での情報教育に関する実践授業の支援 を目的に、高校での実践授業を支援するためのプログラムを提供することで、教員のスキルアップを支援し、より良い教育環境を整備することを目指している。 小中学校については、青少年のための科学の祭典を本学で実施 する等、 プログラミングなど情報教育の魅力を地域に伝える活動 を行っている。また、科学技術振興機構の 理数系教員養成拠点構築（CST）事業(H23～28年) 及び ジュニアドクター育成塾(H29～R5年） の採択を受けて、前者は三重県の小・中学校における理科教育の改善と指導力の向上、後者は三重県内で科学研究に強い関心と潜在的能力を持つ児童生徒の支援を行い能力の伸長を図ることを目的に実施してきた。現在、三重県内の 大学、高専、教育委員会と協力して県内4か所で教室を開設 している。 プログラミングなどの情報工学に関するテーマも実施 されている。	（工学部総合工学科電子情報工学コース及び工学研究科電子情報工学専攻については、R7年度設置のため、R6年度末時点で、半導体分野の教育研究を行う工学部総合工学科電気電子工学コース及び工学研究科電気電子工学専攻が行った実績・状況を記載。） ○高校への出前授業 ・情報工学専攻・コースでは、3件実施。[テーマ（実施日）：「ヒトの脳とコンピュータをつなぐ」（10/24）、「コンピュータのつくりかた」（11/15）、「バーチャルリアリティの歴史、今と、これからのこと」（R7.3/11）] ・電気電子工学専攻・コースでは、5件実施。[テーマ（実施日）：「工学系の職業」（8/7）、「光る半導体LEDの仕組みと応用」（9/30）、「三重県の半導体産業とLED研究」（10/24）、「人工知能のはなし」（10/31、12/17）] ○高校での情報教育の実践支援 ・情報工学専攻において、「高大連携学問探求セミナー」の一環として「実践プログラミング：最適経路の探索」と題し、2日間のプログラミング講座をオンラインで開催した。内容として、Python言語のプログラムを動かし、道路網での近道を探すプログラムを作りながら、アルゴリズム（問題解決の処理手順）とデータ構造（使い易くまとめたデータの集まり）という、情報技術で大事な二つの考え方を学ぶものであった。 ○小中学生に情報教育の魅力を地域に伝える活動 ・工学研究科では、小中学生を対象としたR6年度夏休みものづくり・体験セミナーを開催した。（7/31～8/7） ○ジュニアドクター育成塾 ・電気電子工学コース・専攻において、1テーマ実施。[テーマ：「光文化を変えたLED」]	課題等は特になし

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	三重大学
-------------	-------	-----	------

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
半導体・デジタル未来創造センターでは「 女性研究者が輝く未来創造プロジェクト 」として、大学、企業等で活躍している女性研究者を招聘して講演会とともに懇談会を実施している。この活動では、 招聘した女性研究者をロールモデル として示すとともに、 学年やコースを超えた女子学生のコミュニティ形成 を行っている。また、オープンキャンパスや出前授業においても、女子学生の入学者増加にも取り組んでいる。社会人については、 地域イノベーション学研究科を中心に、リカレントやリスキリングの教育実績 を有している。社会人特別選抜を実施し、学位取得支援制度の活用など、社会人が柔軟に入学できるような制度を整備している。更に、 R4年にリカレント教育センターを設置 し、社会人学生の学習支援やキャリアアップ支援などを行っている。 国際交流センターでは、留学生等の受入れに関する全学の協力と留学生への支援 を進めている。外国人留学生特別選抜を導入し、また留学生を対象とした日本語教育、独自の奨学金制度など、留学生が入学しやすい環境づくりを行っている。 外国の協定校を含めた国際シンポジウムを工学研究科で毎年開催し、グローバル化・コミュニケーション力も強化 している。	○女性研究者が輝く未来創造プロジェクト ・半導体・デジタル未来創造センターと共同で、大学や企業等で活躍する女性研究者による講演会・懇談会を3回開催した。内容は、以下のとおり。 ・「なんとなくわかる半導体 ～ プロセス編 ～」（7/10） 講演者：井谷 彩花（ウエスタンデジタル合同会社） ・「選択を正解に」（7/30） 講演者：宮川 鈴衣奈（名古屋工業大学大学院 工学研究科物理工学専攻 助教） ・アプライド マテリアルズ ジャパンの女性技術者による講演［松阪高校で実施］（12/5） ○女子学生向けキャリア支援 ・ウエスタンデジタル合同会社からの寄附により、女子学生を対象とした女子学生応援奨学金を設立した。 ・研究領域C国際シンポジウム（9/24）において、女子学生向け講演会として、University of Applied Sciences and Arts Northwestern Switzerland博士後期課程の女子学生である Celine Audrey Vergne 氏による講演 "Journey to Become a Young Researcher in Biomedical Engineering" が行われた。本講演では、彼女の研究内容に加え、研究者を目指す女子学生に向けて、これまでのキャリアについて経験談が語られた。約100名が参加し、大変盛況な講演会となった。 ○女子入学者確保に向けた取組（オープンキャンパス、出前授業、入試等） ・R6年度オープンキャンパスにおいては、総合工学科情報工学コースを始めとする全コースで、各コースの女子学生の協力の下、学生生活や学修・研究活動の紹介、高校生からの進路相談に応える「女子学生によるコース紹介＆進路相談コーナー」の準備を進めていたが、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」の発表に伴い、開催中止となった。 ・R6年度の出前授業においては、名張青峰高校（6/20）で1名、高田高校（7/3）で5名、暁高校（R7.3.11）で2名の女子学生によるコース紹介が実施された。 ・R7年度設置予定の電子情報工学コースの入学者選抜（学校推薦型選抜）において、女子特別枠（募集人員5名）を設け、実施した。〔実施結果：志願者8名、合格者8名〕 ○社会人向け教育 ・工学部・研究科として、リカレント教育センターを通して企業の要望に沿ったオーダーメイド型のリカレント教育プログラムを実施しており、専門性の高い講義を提供している。令和6年度は、1件1名の受入れを行った。 ○留学生支援 ・工学部では、学部編入学の私費外国人留学生支援制度により、留学生1名（ハノイツイニングプログラム学生）に対して授業料等の支援を実施した。 ・工学研究科では、私費外国人特待留学生制度により、留学生6名（継続4名、新規2名）に対して授業料支援（全額免除）を実施した。 ○グローバル化推進 ・工学研究科で専攻横断的な国際シンポジウムを開催し、外国人研究者による講演会を6件実施した。	課題等は特になし

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	三重大学
-------------	-------	-----	------

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学は、「 高等教育コンソーシアムみえ 」による 県内の大学、高専と学生の相互交流プログラムを実施 している。このプログラムは、他大学や高専の学生との交流を通じて、地域間や学問領域を超えた学生の交流を促進することを目的として、異なる文化や環境に触れることで、多様な価値観を学び、社会に貢献する人材を育成することを目指している。更に、地域産業との連携も積極的に行っている。例えば、「 みえ半導体ネットワーク 」や「 中部地域半導体人材育成等連絡協議会 」のように 地域の半導体産業と産学官の協力関係 がある。情報工学分野においても、 三重県の「みえのデジタル社会の形成に向けた戦略推進計画」と連携 して、実践的な知識や技術を身につけた人材を育成する活動を行っている。また、 高専専攻科との連携教育プログラムの実施 に向けた打ち合わせも開始している。高専専攻科は、実践的な技術を身につけた専門的な人材を育成するために、産学連携を重視しているが、本学との連携教育プログラムにより、高専専攻科の学生が大学の専門知識を学び、さらに大学院に進学することでより高度な専門知識や研究力が教授される。 鳥羽商船高専とは、情報工学分野における人材育成の連携協議 を進めている。	○「高等教育コンソーシアムみえ」（本学に事務局を設置）での県内大学、高専との学生相互交流プログラム 県内の学生が取組む地域活動発表会として、「みえまちキャンパスin みかん大」（R7.2/20）を三重県立看護大学にて開催した。令和6年度は6大学（鈴鹿大学、三重県立看護大学、皇學館大学、三重大学、四日市大学、三重短期大学）の学生が参加し、プレゼンテーションやパネル展示による発表及び意見交換会・交流会を行った。 ○みえ半導体ネットワークでの活動 ＜みえ半導体ネットワーク人材育成部会〔第1回（5/27）、第2回（10/10）、第3回（R7.2/25）〕＞ ・三宅教授が部会長を務め、三重県、四日市市、桑名市の担当者、キオクシア、ウエスタンデジタル等の半導体幹事企業の担当者とインターンシップや工場見学、特別授業等について情報交換を行った。 ＜みえ半導体ネットワーク第3回 総会（R7.3/24）＞ ・三宅教授が部会長を務める人材育成部会における、R6年度活動実績について報告した。 ＜岩手県、大分県の産学官連携組織との連携＞ ・いわて半導体関連産業集積促進協議会、大分県LSIクラスター形成推進会議と半導体関連産業の振興に関する合意書を締結した（7/12）。これに合わせ、岩手大学、大分大学と人材育成に関する取組みについて情報交換を行った。 ＜小中高生を対象とした、半導体に興味を持つ人材を増やすため動画を作成（9/4）＞ ・三重県の主要産業である半導体産業について、小中高生を中心に多くの方々に興味を持ってもらうため、半導体産業のPR動画を制作。本学から学長、三宅教授が出演し、半導体とはどういったものか、生活のどこで使われているか等の基本的な知識について解説を行った。 ＜半導体・デジタル未来創造センター 第2回 研究会（10/10）＞ ・三宅教授が、本学の半導体・デジタル未来創造センターの取り組みについて説明したほか、センター所属の教授2名の研究紹介を行った。 濱口教授：「可視光VCSELの最新の進展と次世代レーザーの研究」 姚教授：「放射光X線を利用したパワー半導体結晶中の格子欠陥のオペランド観測」 ＜半導体・デジタル未来創造センターセミナー〔第1回（11/18）、第2回（R7.1/9）〕＞ ・著名な講師をお招きし、本学の半導体関連研究室の学部4年生と大学院生を対象とした、基礎的な講演と最先端の研究を紹介することで、研究のレベルアップを図った。また、講師と本学教員で情報交換を行った。 第1回講師：橋詰 保（名古屋大学 未来材料システム研究所・特任教授／北海道大学・名誉教授） 第2回講師：大川 和宏（Professor King Abdullah University of Science and Technology） ○高専専攻科との連携教育プログラム ＜鳥羽商船高等専門学校＞ ・連携教育プログラムに基づいた学生募集を実施した（5/7～5/15）。[実施結果：志願者0名] ＜鈴鹿工業高等専門学校＞ ・森工学研究科長と鈴鹿工業高等専門学校長とで、今後の連携方針等について打ち合わせを行った（R7.3）。	課題等は特になし

大学名	三重大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

本事業対象となる研究科等の個数	2
-----------------	---

1. 本事業対象となる情報系組織の状況

1-2. 修士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	工学研究科情報工学専攻
-------	-------------

[illegible]

大学名	三重大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

本事業対象となる学部等の個数	2
----------------	---

1. 本事業対象となる情報系組織の状況

1-3. 学士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	工学部総合工学科情報工学コース
-------	-----------------

[illegible]

大学名	三重大大学	改組内容	研究科等の設置・増員 + 学部等の設置・増員（一般枠）
-----	-------	------	-----------------------------

3－3.学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,310	1,310	1,340																
		入学者数	人	1,348	1,351	1,381																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,310	1,310	1,340	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	1,348	1,351	1,381	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.03	1.03	1.03	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員(C)	人	5,650	5,650	5,685																
		編入学定員	人	80	80	85																
		在籍者数(D)	人	5,884	5,912	5,988																
		編入学者数	人	57	61	55																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.04	1.05	1.05																

4.外部資金の状況（全学）

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	2,930,482	2,350,661																	

特記事項

1.本事業対象となる情報系組織の状況における特記事項
・工学研究科情報工学専攻（博士前期課程）のその他の学期の入学定員 0 とは、若干名を意味する。
・令和 6 年度の情報工学コースの入学者数は、情報工学コースの1年次入学者数と、総合工学コースからの配属者数によって構成されている。また、総合工学コースからの配属者数は同コースから情報工学コースへの配属人員を配属者数にみなして記載している。
なお、令和 7 年度に総合工学コースから情報工学コースへ5人の配属を実施し、令和 6 年度の情報工学コースの入学者数は68人となった。